

創元選書既刊目錄

眞船 豊著 見知らぬ人 (16) 送料 一圓二十錢
 眞船氏ぐるらる強靱な生活力を持ち、それをその作品の上で遺憾なく証明して見せてくれる劇作家は少い。いづれも作品の底には、静かな妖気がただよひ、教切型に陥らず、現代人の中のドラマ性を描み出した最も底深い感動がある。

堀 辰雄著 かげろふの日記 (17) 送料 一圓十錢
 「源氏物語」等に深い影響を與へてゐる「蜻蛉日記」の本質的なものを、著者堀氏は今日のわれわれの新しい言葉をもつて生かし、同時に日記作者たる一女性の潑刺たる感情及び心理を完全に描き出した。文壇近時の一大收穫。

吉 田 健一譯 精神の政治學 (18) 送料 一圓十錢
 ヴァレリーの不朽の名著「ヴァリエテ」の中から、「精神の政治學」「知性に ついて」「地中海の感興」「レオナルドと哲學者達」を譯出した。現代ヨーロッパ精神の解説書として、萬人の必讀を要請してやまない。

湯 浅 芳子譯 妻への手紙 (19) 送料 一圓二十錢
 本書は、チェーホフの奥深い私的生活や、演劇への示唆を含み、また彼が如何に人間の價値才能を高く評價し、それを生かす爲に如何に自身の不自由や苦痛を堪へた人であつたかを教へる。彼の文學を愛し研究する人にとつて最適の書だ。

佐藤 信衛著 冬の一夜 (20) 送料 一圓二十錢
 この對話體をもつて書きつづられた一巻には、若い科學者と小説家とが登場して、自然、道徳、人生、社會、宇宙等々に關する諸問題を忌憚なく討究し、人性を正し、恒久普遍なるリアリテを求めようとする。現代人必讀の書。

創元選書既刊目錄

岸田 國士著 歳 月 (21) 送料 一圓十錢
 フランス近代劇の精髓を優れた個性をもつて移植し、我國演劇界に純正演劇の地歩と傳統を樹立した輝かしい名作「紙風船」「牛山ホテル」「歳月」の三篇を収めた傑作集。他の戯曲は自ら抹殺してもよいとさへ云はれる代表作集である。

山上 八郎著 日本の甲冑 (22) 送料 一圓四十錢
 學士院賞を獲たる「日本甲冑の新研究」の中から、著者自ら萬人の興味をそそるべき箇所を採萃し、その後の研究の成果を加へて首尾一貫せる小冊に纏め、以て原著の精髓を傳へた貴重な文獻。名實共に斯界第一の書である。

植 村 隆千代譯 藝術論 (23) 送料 一圓二十錢
 ユーゼフ・ドラクロアは、フランス大革命の精神を體得した「新しい人間」の典型であり、フランス繪畫に於ける天才的表現者であつた。眞實の美の意識に透徹した巨匠のこの藝術論こそ、近代文化史上に燦然たる光を放つ無二の名著。

萩原 朔太郎著 詩集 宿命 (24) 送料 一圓四十錢
 宿命は「散文詩」と「抒情詩」と書下しの「附録」散文詩自註の三部を合編したもので、著者の至純な藝術の高次なもののみが點綴してある。この書は、著者を知る上にも又その詩情にふれるにも又とない好書である。

柳田 國男著 國語の將來 (25) 送料 一圓五十錢
 日本語を愛する者なら誰でも、それに對して様々な疑問や興味や危惧を抱かずにはゐまい。氏は高い教養と傑出した見地から、時代環境の變化に應じ、より立派に、より健全に發達し得るよう、これが眞の愛護を説きその將來を豫測された。

録目刊既書選元創

谷崎潤一郎著 吉野葛 (26) 送料價十一 錢圓

「吉野葛」は南朝の秘史と傳説とにみられた奥吉野の神祕境を探つて、大谷崎が情感豊かな上方人の感傷を描いた名作。なほ他に「盲目物語」一篇を加へた。座頭の心に映じた戦國の有爲轉變が、佛法じみた哀愁でいろどられてゐる。

川田 順著 西行 (27) 送料價十一 圓三十 錢

和歌と宗教との間を彷徨しつゝ、矛盾撞着に苦惱のかぎりを盡した西行の歌は、所詮その苦しみから来る眞摯な告白である。多年ひたむきな研鑽を積まれた著者は、在來の誤傳異説を糺し、爰に前人未踏の西行觀を打ち立てたのである。

竹内 尉著 千利休 (28) 送料價十一 錢圓

日本精神文化に不滅の光彩を放つ利休の茶は、芭蕉の俳句、宗祇の連歌、西行の和歌、雪舟の繪畫と根本精神を一つにするものである。本書は、悲劇的な生涯を閉じた茶聖利休の完璧な傳記であり、その精神を知る絶好の研究書でもある。

阿部 六郎著 惡意の知慧 (29) 送料價十一 錢圓

本書は「惡意の知慧」に「悦ばしき知識補遺」を譯出一巻としたものである。この時期の所産で、悲痛な人生眞理の汲みつくせぬ魅惑を啓示してゐる。

阿部・河上共譯 悲劇の哲學 (30) 送料價十一 圓二十 錢

「ドストエフスキイ論」と「ニイチエ論」との二部からなる人性探究の書である。近世合理主義の根柢をなす理性への反逆から出發して、そこに眞の生命を見出す彼の論旨は、時に狂暴さを帯びるも、その心情の純眞さは無類である。

録目刊既書選元創

井伏鱒二著 川と谷間 (31) 送料價十一 錢圓

特殊の色調を持つ作家井伏氏の「川」は、朽葉の下から源を發し末は大海に注ぐ川の、蜿々悠々な姿の中に、生々流轉の人生を物語つた名作である。その他、氏が自ら選ばれた「谷間」「屋根の上のサワン」「冷凍人間」等の傑作を集む。

石川 欣一著 日本その日 (32) 送料價十一 圓四十 錢

モリスは我國の生物學や人類學の始祖として敬慕された篤學である。本書は、彼が日本人の自然愛の天性について觀察し、絶讃した記録を纏めたものであつて、日本文化とアメリカ文化との對照をうかがはせて頗る興味ふかい。

梶井基次郎著 城のある町にて (33) 送料價十一 圓二十 錢

天折した梶井基次郎は近來稀にみる本質的な作家であつて、その幾つかの作品は象徴の世界に入つた不朽の傑作である。本書には、檸檬・をはじめ、城のある町にて・過去・ある心の風景・冬の蠅・のんきな患者等十九篇を輯録した。

小林 秀雄著 テスト 氏 (34) 送料價八十五 錢

ヴァレリの透徹無比の批評的方法は、結局自我の純潔を求めるといふモラルの應用に外ならないのだが、このモラルに基いて、嚴正非情な一人格を描いて見たのがこの「テスト氏」である。

關根 秀雄著 モンテの自然哲學 (35) 送料價十一 錢圓

ビエルのヴァイレは、廣知深淵なモンテニユの思想と、その生活とについて前人未踏の研究をなし、己の生涯を捧げて現代フランスのモンテニユ學を打ち建てた、盲目の哲學者である。

創元選書既刊目錄

谷崎潤一郎著 陰翳禮讚 (36)

送價 〇・二〇〇

内容。戀愛及び色情、陰翳禮讚、現代口語文の缺點について、懶惰の説、半袖ものがたり、厨のいる、旅のいる、このやうな日本美論は今後再び現れぬであらう。

志賀 勝著 ロレンス (37)

送價 〇・二〇〇

人間を理性の袋小路から解放し、行動への純粹な意欲を探し求めたロレンスの全貌を、著者は懇切な方法をつくして、その矛盾と醜さと共にここに一つの不滅の姿に彫りあげた。彼の思想藝術を理解するに又とない好著である。

柳田 國男著 孤猿隨筆 (38)

送價 〇・二〇〇

これは文書が聊も傳へやうとしなかつた、獸と人間の歴史を獨自の方法で尋ねた好著である。内容。猿の皮、松島の狐、狐飛脚の話、坂川彦左衛門、サンセバスチヤン、對州の猪、猫の鳥、どら猫觀察記、狼史雜話、狼のゆくへ。

宮崎 嶺 雄譯 谷間の百合 (39)

送價 〇・一五〇

これは情念の本質的なもののみを見事に抽出した書であると共に、また最も美しく青春を現はした戀愛小説である。その誠實と情熱とに一貫された内容は、バルザックの數多い作品中、獨歩の位置を占めるものである事は論を俟たない。

三宅周太郎著 文樂の研究 (40)

送價 〇・一五〇

世に藝道の數は多いが、人形淨瑠璃ほど深刻で且つ興味深いものはない。何故ならこれほど嚴正な型をもち、しかも苛烈な精進修業を積む藝術はないからだ。この峻嚴華麗な國粹藝術の殿堂を限なく研鑽した文獻が本書なのである。



